

## 病院行事紹介

2017年4月1日

シャインズにて  
新入職員歓迎会を  
行いました。

2017年7月5日

回復期リハビリテーション  
病棟にて七夕会を  
行いました。

## 栄養科より

# 七夕

H29.7.7 実施

当院では七夕の行事食でちらし寿司を提供しました。  
錦糸玉子や星型人参、きざみのり、サーモントロップなどをちらし、  
天の川をイメージしました。

☆メニュー☆  
ちらし寿司  
とん天  
山芋とろろ  
和菓子

常食

エネルギー 563kcal  
たんぱく質 17.4g  
脂質 8.7g  
炭水化物 104.4g  
塩分 2.3g

きざみ食

ペースト食

## 外来診療担当案内

		月	火	水	木	金	土
外科	午前	森垣	花井	院長 安田 伊東 河合	森垣	院長 梅木	院長 浅野 高橋(隔週)
	午後	森垣	院長 花井	河合	森垣	梅木	
整形外科	午前	中川	早川 安藤(月1回)		中川 加藤(誠)		
	午後	中川		見松 安藤(月1回)	中川		
脳神経外科	午前		吉田				
	午後					熊井 加藤(月2回)	
脳神経内科	午前		高津			高津	高津(隔週)
	午後						
循環器科	午前	小林 星野					
	午後	小林 高木	鷹津(隔週) 西村(隔週)	加藤(靖) (第1、3)		鷹津	
内科	午前		浅田				早川(隔週)
	午後				渡邊		
皮膚科	午前						
	午後		湯浅			入野	

## 医療法人 明和会 辻村外科病院

〒448-0001 愛知県刈谷市井ヶ谷町桜島20-1  
Tel.(0566)36-5200 Fax.(0566)36-5561  
<http://tsujimurageka-hp.com/>

発行日：2017年7月10日 発行：辻村外科病院広報委員会

# 広報 つじむら

## 第23号

### 基本理念

## Smile&Harmony

～明るい笑顔と調和～

### 基本方針

- ・いつも明るく患者様の満足を常に考え、医業に専念します。
- ・地域に働く人々及びその御家族の幸せを第一に考え、信頼される調和のとれた病院を目指します。
- ・同じロマンを持つスタッフが一丸となり得られた成果を社会に還元し、医療の質向上に努めます。

### 患者様には以下の権利と責任があります。

- ・個人としてその人格を尊重され、適切な医療を平等に受ける権利があります。
- ・病名、病状、予後、検査と治療の内容と危険性、薬の効果と副作用などについて十分に理解できるまで説明を受ける権利があります。
- ・治療法など自らの意思で選択する権利があります。
- ・個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。
- ・これらの権利を守るため、患者様は医療従事者と力を合わせて医療に参加、協力する責任があります。

## ごあいさつ



新年度を迎え、広報誌23号の発行にあたり一言  
ご挨拶申し上げます

日頃は病院運営にあたり格別なるご高配を賜り  
厚くお礼申し上げます。

今年度も、リハビリ職員を始めとして多くの職員を  
迎えることができました。今後は新入職員の皆さん  
が一日も早く職場に慣れて実力を発揮してくれる  
ことを期待しております。

さて、昨年度はさらなる診療の充実を図るべく、  
X線テレビシステムの更新を行いました。X線テレビ  
システムの概略については広報誌中面にて紙面を  
割いて紹介しておりますので、ぜひご覧いただけ  
ば幸いです。

最新の検査機器の発展には目を見張るばかり  
です。こうした機器をうまく活用し、皆様のお役に  
立てるように努力して参る所存でございます。

今後も診療内容の充実に向けて更なる改善を  
していきますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程、  
よろしくお願い申し上げます。

平成29年7月

医療法人 明和会 辻村外科病院

院長 辻村 亨

## 高尿酸血症 2

最近、高齢者だけでなく若い方にも増えている高尿酸血症について2回にわたり説明します。2回目は「高尿酸血症の治療」について説明します。

(監修:院長 辻村 享)

### 高尿酸血症の治療

高尿酸血症の治療は、食事指導や薬物療法の最適化が基本となります。



### 高尿酸血症の薬物療法について

痛風発作を繰り返す場合や痛風結節を認める場合、さらには、これらの症状がなくても血清尿酸値が9.0mg/dl以上の場合(いわゆる無症候性高尿酸血症)は薬物療法の適応となります。



### 薬剤の選択について

病型にあわせて薬剤を選択します。代表的な薬剤は2種類に分けられます。

- ①尿酸産生抑制薬:肝臓で、尿酸を生成する酵素の働きを抑えます。
- ②尿酸排泄促進薬:腎臓に働きかけて尿酸の排泄量を増やし、尿酸値を下げます。

これらの薬剤によって急激に血清尿酸値を低下させると痛風発作を誘発させることがあるため、薬剤は少量からはじめて徐々に増量します。

その他、痛風発作時(急性痛風関節炎)には、尿酸値を低下させる薬剤は使用せず、急性炎症に対して非ステロイド性抗炎症薬(NSAID)による治療を中心とする場合もあります。

又、高尿酸血症患者では尿が酸性に傾きやすく、尿路結石の傾向を惹起しますので、尿の酸性度を確認することは大切です。尿が酸性であり、尿中尿酸排泄量が多い場合(800mg/day以上)や、尿酸排泄促進薬を使用している場合、または尿路結石を保有したりその既往がある場合には、酸性尿改善薬(クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム)を使います。

治療においては生活習慣の是正が基本で、薬物療法は副作用に注意して行うことはいふまでもありません。



お知らせ

## 2017年3月、最新鋭のX線テレビシステムを導入しました



株式会社島津製作所製 FLEXAVISION

X線テレビシステムはレントゲンのような静止画ではなく動画で人体を透視する装置です。必要に応じて静止画を撮影することも出来ます。

有名な検査としては胃造影検査(バリウムを飲んで行う検査)、注腸造影検査(お尻からバリウムを注入して行う検査)があります。他にも体内にカテーテル(チューブに特殊加工したもの)などを挿入する際の位置確認などでも使用します。また当院での代表的な検査として嚥下造影検査があります。



胃造影検査



注腸造影検査



嚥下造影検査

嚥下造影検査とは飲み込みの過程や状態を正確に評価するための検査です。摂食・嚥下障害(食べ物がうまく飲み込めず、誤って気管に入ってしまうこと。「誤嚥」ともいう)の疑われる患者さんに行い、のどの形や、飲み込み方に問題がないかを調べるのがこの検査の目的です。またこの検査により、確実に飲み込むことができる体位や、患者さんに適した食べ物の状態(「とろみ」をつけた方が良い、ゼリー状のものが良いなど)を検討します。

摂食・嚥下障害の疑われる患者さんは、誤嚥により肺炎を繰り返し発症することがあります(誤嚥性肺炎)。健常者と比べ、肺炎により死亡するリスクが増加するため、誤嚥を診断して予防する方法を探ることが必要です。嚥下造影検査の結果により経口摂取が可能かどうか判断でき、さらに、誤嚥を予防する体位や食事方法を検討することで誤嚥性肺炎を予防することにつながります。

今回導入した装置は「X線管引き伸ばし機能」がついており、この機能が嚥下造影検査に大変適しています。

最新医療機器を上手く運用し、患者様のお役に立てるよう精一杯努力してまいります。